

25年7月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
仕入 動向	国産材製材品	16.7	0.0	22.2
	外材製材品	12.5	25.0	18.8
	構造用集成材	0.0	6.3	12.5
消費 動向	国産材製材品	33.3	11.1	22.2
	外材製材品	11.1	16.7	11.1
	構造用集成材	18.8	6.3	18.8
在庫 動向	国産材製材品	5.6	5.6	11.1
	外材製材品	16.7	27.8	0.0
	構造用集成材	0.0	6.3	18.8

仕入は国産材は7月増加が8月横ばいを経て9月は増加に、外材はマイナス基調で推移、集成材は7月横ばいが8月の減少を経て9月は増加に。

消費は国産材及び集成材はプラス基調で推移、外材はマイナス基調で推移。
在庫は国産材及び集成材が7月の増加ないし横ばいが8月の減少を経て9月には増加に、外材は7,8月の減少が9月には増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight.D.I.

品目	25/7月	8月	9月
受注	22.2	16.7	16.7
加工	33.3	0.0	11.1
受注残	0.0	0.0	22.2

受注はプラス基調で推移、加工は7月の増加が8月の横ばいを経て9月には増加に、受注残は7,8月の横ばいから9月には増加に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)・消費増税の駆け込み着工分考えて仕入れコントロール、為替変動注意深く追いながらの難しい仕入れ。・スギKD納期普通に戻り価格横ばい、米マツKDも不足感薄らぎ価格上昇穏やか、集成材管柱、平角とも納期短くなり、価格は管柱横ばい、平角やや強含みないし横ばい。県内新築着工(1~5月)は前年同期比124%と好調で加工量増加中、原料消費は大きな変化なし。お盆前後は生産量減る。在庫は国産材横ばい、外材増えつつある。集成材本格シーズンに入り少しずつ増加傾向。・近隣に製材工場多く加工も持ち込み材が65%前後、6月は加工予定先延べ物件多くあった。・国産材、外材とも価格上昇止まらず、消費は高水準で推移、在庫は現場の遅れから滞留在庫増加傾向。・木材利用ポイントの申請で土台、柱等で国産材が少し増えている。・ベイマツ 筋交用材の仕入れが難しい、全体に価格予想通り高くなってきた。・仕入れは米マツKDが値上がり、消費は少し忙しくなってきた、在庫はアカマツ野縁38角が入手しづらい。

(受注動向)・木材利用ポイント事業開始されたが思った程の効果が出ていない。・7月受注・加工は前月比95%程度、8月は一服感出そう、受注残は約1カ月で例年並み、8月末には増加と予想。・全邸別仕入れをしている。・受注、加工とも順調。・まだ当面はいそがしい状態が続くそう。・受注増を残業で対処。